

氏名	江 草 憲太郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1545号
学位授与の日付	平成8年9月30日
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Heat shock proteins in acute otitis media (中耳炎における熱ショック蛋白の発現)
論文審査委員	教授 小熊 惠二 教授 岡田 茂 教授 松尾 信彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

熱ショック蛋白は生体を様々な障害から防護するために重要な働きをなしていることが近年明らかになってきた。我々は熱ショック蛋白と耳鼻咽喉科的急性炎症疾患である急性中耳炎の関連について研究を行った。急性中耳炎モデルとしてモルモットの中耳腔に清潔操作を用いて *S. pneumoniae* を接種した。対照として、滅菌リン酸緩衝液を対側の中耳腔に注入した。モデルは接種後1日、3日、5日の時点で安楽死させ、中耳粘膜を水中で取り出して実験に用いた。抗 hsp 70 抗体を用いた免疫染色において、中耳炎モデルの中耳粘膜上皮に強い染色を認めた。ウエスタンブロット法にて中耳粘膜における hsp 70 の存在を確認した。ELISA を用いた定量にて、接種後1、3日の感染耳において、対照に比べ有意の hsp 70 の濃度上昇を認めた。Hsp 60 は、対照中耳粘膜にその存在を確認できたが、感染耳での誘導は認められなかった。これらのことから熱ショック蛋白が急性中耳炎において生体防御の面から重要な役割を果たしていることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、モルモットの中耳腔に *S. pneumoniae* を接種することにより急性中耳炎のモデルを作製し、経時的に感染局所に出現してくるHSP60とHSP70を観察したものである。HSP60の誘導は認められないが、HSP70は感染後1日、3日目で有意に上昇していることおよびこの上昇は局所で産生された活性酸素により誘導されることを示唆した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。